

学びの広場



京都市教育委員会
教員養成支援室
令和7年12月6日 No.5

第4回教育学講座では、京都市の教育現場で長年、児童生徒と向き合ってきた専門主事・指導主事の先生方から、児童生徒理解を深める実践についてお話しいただきました。パネルディスカッションからは、その子にとって何が最善かを考え、試行錯誤しながら、日々子どもと関わってきたことが伝わってきたのではないのでしょうか。『子どもをよく見る』『寄り添う』『一人一人を徹底的に大切にする』、言葉にするのは簡単だけれども、具体的にどのように実現していくのか、そのために大切な姿勢や考え方は何かについて学ぶことができたことと思います。教育の根幹をなす『一人一人を徹底的に大切にする』ということについて、先生方のお話も心にとめながら、これからもこのことについて問い続けていってほしいと思います。

仲間のレポートに学ぶ



第4回京都市教育学講座 小学校専門講座 小学校における教師の実践

～一人一人を徹底的に大切にする学級・授業づくり～

今回の講座を通して、教員として「満足しない」ということを大切にしたいと感じた。講義の始まりで、「一人一人を徹底的に大切にすると何か」という質問をされた。私は教員に対して子どもたち全体という考え方をするのではなく、一人一人にしっかりと繋がりを持ち誠意をもって接することだと考えた。またその中で、受け手である児童側が、大切にされていると感じることが出来ることも大切であると思った。大切にしていると思っただけの行動であっても相手に伝わっていなければ大切に出来ているとは言えない。児童が、大切にされているという関わりを構築していくことが大切になるという風に感じた。

全体会では実際の子どもの様子や保護者との関わりのお話を聞くことが出来た。子どもの起こす行動には何か原因がありただ単に叱るのではなく、理由を聞いたり知ろうとしたりすることが大切であるということを知ることができた。またその中で保護者との連携についても取り上げられた。今までは保護者との関係構築は難しいという話をよく聞いていたので、そういったイメージであったが、子どもを大切にしたいというのはみんな同じということを知り、難しいとしても子どもを知ることや子どもを支えていくことには必要不可欠であるということを確認した。

分散会ではそれぞれの児童に応じた声掛けをすることの大切さ、そのためには児童の見取りが大切であるという話し合いが展開された。児童の見取りをするには担任である自分だけではなく、他の先生、保護者また地域の人にも協力をしていただくことで児童の様々な側面を見ることが大切だと思った。チーム教員だけではなく、子どもたちを取り巻くすべての環境で子どもたちを支えていくことを意識したいと思った。

全体会、分散会を通して子どもたちをより支えたいという気持ちが大きくなりそのための方法を広げることが出来た。思いは通じるという言葉を知り、より真摯に子どもたちと関わることが信頼関係を構築する中で大切にしたいと思った。“たのしんどい”といわれるこの教員という仕事に対して自分は教育を通して“未来を作っている”ことを自覚しながら「財産」である出会いを今後も大切にしていきたいと思った。

半分くらいの子供からの反応などがあれば、ついつい全員と繋がっているように思いがちです。先生からの声かけをじっと待っている子もいます。その子にとって本当に必要な支援を見つかることができれば、その子は確かに成長します。本人でさえ気づいていないかもしれない、真の困り・本当の思いに何とか辿り着きたいです。保護者の方との繋がりやほかの先生方の視点は大切にしたいです。集団の中での個々の確実な成長は簡単なことではありません。一人一人を大切にしながら集団の力を高め、集団によってさらに個々を高めていきたいですね。友だちとの関わりで相互作用が働き、その中で子ども達は成長していきます。それができるのが学校です。最後の思い、大切に！

～クラス担当スタッフからのコメント～

仲間のレポートに学ぶ



第4回京都市教育学講座 中学校専門講座 中学校における教師の実践 ～一人一人を徹底的に大切にする学級・授業づくり～

今回の講座を通じて、学級や授業において一人一人を徹底的に大切にするために重要な考え方や姿勢について学ぶことができた。

全体会では、多くのことを学べたが一番印象に残ったのは「教師は決して一人ではない」ということである。自分が頑張っただけでやらないといけない、責任を持つものとしてそう感じてしまいがちになっていた。また自分のためなところに目を向けてしまいがちになっていた。しかし、今回の講義で教師にも得意不得意がありその得意なところ生かし、「助け合いながら仕事をしておられた」ことを聞いて、教師は「子どもたちが成長できるように、そして、幸せになれるように育てたい」という同じ思いを持った仲間であることを改めて学ぶことができた。分散会では「子どもたちのやる気スイッチを入れられる授業とは」と「子どもを広く見る力」について主に話し合った。まず、子どもたちのやる気スイッチを入れられる授業では教科が得意な子も苦手な子にも興味や関心を持たせられるのはどのような授業か考えた。話し合いでは、子どもたちに考えさせられるような発問や子どもたち一人一人の関心で選べるような活動を取り入れるなどの意見が出てきた。教師はただ知識を教えればいい訳ではない、誰一人として取り残すことなく、子どもたちが「知りたい」「学びたい」と思えるような授業を考え続けることが重要なのだと思った。また、子どもを深く見るということは、子どもたちの関心に合わせた授業づくりや学級運営などで、一人一人を大切にする上で必要である。しかし、自分の授業やクラスで見る子どもたちは、その子の一部分に過ぎないだろう。だからこそ、他の先生に話を聞くことや他の授業や部活での様子など違う視点から見ることも必要だと考えた。

今回の学びを基に「人を見る力」をさらにつけていきたいと考えた。まずは、自分の強みを知ることからはじめ、自分の周りにいる人たちを今一度きちんと見ていくようにしていこうと思った。また、子どもを見ていく上で、授業やクラス、部活などのそれぞれの時に、子どもたちのどんな行動や様子に着目してどのように見ていくのか、その見方や視点についてもさらに深く学び、考えていきたいと思った。

中学校における教師の実践のパネルディスカッションでした。「教師は決して一人ではない」ということが印象に残ったようですね。教師には責任は伴いますが、すべてを一人で行うのではなく、助け合いながら子どもの成長を支えているということに学びがあったようですね。分散会では「やる気スイッチを入れられる授業」について意見交流がされたようですね。子どもたちが「知りたい」「学びたい」と思えるような授業を考えていくということに目が向けられていますね。「自分の人を見る力」をさらにつけていくという課題も持たれたようですね。実際の場面を想定し、どのように関わるのかもイメージして今後につなげていってくださいね。

～クラス担当スタッフからのコメント～

全体会や分散会の様子



小学校専門講座



中学校専門講座

